

## 2 研究の実際

### (1) 県調査の結果を基にした実態調査とその分析

「平成 26 年度佐賀県小・中学校学習状況調査 [12 月調査] Web 報告書」によると、中学校社会の評価の観点別正答率は図 1 のように示されています。

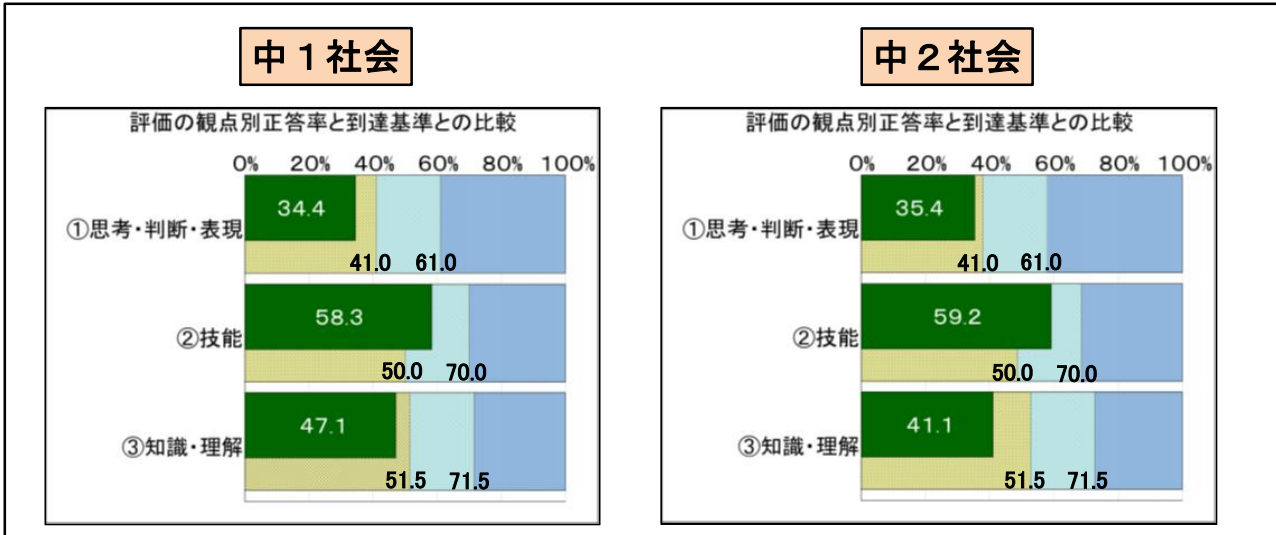


図 1 平成 26 年度佐賀県小・中学校学習状況調査 [12 月調査] 中学校社会の評価の観点別正答率

中学 1 年生、中学 2 年生ともに評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「社会的な事象についての知識・理解」において、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られます。また Web 報告書には、平成 25 年度調査から引き続き課題が見られていることが示されています。

さらに、調査結果の分析（成果と課題）には、中学校社会科において解決すべき課題が示されています。本研究では、以下のように整理しました。

#### 中学校社会科において解決すべき課題

- ・ 資料から読み取った情報を基に、社会的な事象の意味、意義を解釈したり、事象の特色や事象間の関連を説明したりするなど、言語を使って考え、判断し、表現すること  
(社会的な思考・判断・表現)
- ・ 社会的な事象についての基礎的・基本的な知識や概念を身に付けること  
(社会的な事象についての知識・理解)

これらの課題を解決するためには、以下の力を育成する必要があると考えます。

#### 課題の解決に向けて生徒に必要な力

- ・ 習得した知識や概念を活用して社会的な事象の意味、意義を多面的・多角的に考察し、公正に判断したことを表現する力  
(社会科における思考力・判断力・表現力)
- ・ 思考や判断、表現などの過程を通して、基礎的・基本的な知識や概念を身に付けながら社会的な事象の意味、意義を理解する力  
(社会科における知識を身に付け、理解する力)

このようにして、県調査に見られる課題の解決に向けて生徒に必要な力を明らかにし、授業を改善するための重点事項を以下のように整理しました。

### 課題解決に向けた授業改善の重点事項

- ・ 発問について、問われている意図を的確に把握する力を育成すること。
- ・ 社会的事象に含まれる社会的な問題を吟味し、学習問題を見いだす力を育成すること。
- ・ 調べたことを図表やキーワードなどを使って整理し、活用する力を育成すること。
- ・ 調べたことを根拠に理由を示して、自分の考えたことを説明する力を育成すること。
- ・ 言語活動を充実させ、社会的事象の意味、意義について解釈する力を育成すること。

また、生徒の実態を詳細に知るために、誤答傾向を分析し授業改善に生かすことも考えられます。一例として、県調査を基に実態調査問題を作成し、生徒の実態を調査した例を紹介します。

#### ア 調査目的

実態調査問題の解答を分析し、誤答傾向を考察することで、中学校社会科における授業改善に向けた生徒の実態に応じた課題点を明らかにし、本研究に役立てる。

#### イ 分析方法

- ① 設問の趣旨、学習指導要領における内容、評価の観点、正答の条件を明らかにする。
- ② 生徒の解答を基に、誤答を整理した解答類型を作成する。
- ③ 解答類型を基に誤答の傾向を考察し、生徒の課題点を明らかにする。

#### ウ 実態調査、分析

実態調査の詳細について、一例を示します。なお、調査問題については、問題の著作権等に配慮し、分析については、生徒の個人情報に配慮し、一部を掲載しています。

### 実態調査、分析の例（中学 1 年生）

#### ・ 設問の趣旨

資料(インドネシアの雨温図)を基に、インドネシアの高床式の住居が床下を高くしてある理由を、熱帯の特徴と関連付けて説明することができる。

#### ・ 学習指導要領における内容

〔地理的分野〕 内容 (1) 世界の様々な地域 イ 世界各地の人々の生活と環境

世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。

#### ・ 評価の観点 社会的な思考・判断・表現（活用問題）

## ・ 関連する問題

平成 25 年度【県調査】[4月調査] 2年 2-(5)

十分達成	おおむね達成	県正答率	無解答率
60	40	64.0	6.1

## ・ 解答類型（正答欄：◎…本調査での正答）

問題番号	解答類型	正答	反応率
2 (5)	1  次の①②の条件を全て満たしているものを正答とする。 ①雨温図から読み取れる気候の特徴(根拠)を記述していること。 ②床を高くしている適切な理由を記述していること。	◎	41
	2  上記①(根拠)についてのみ書いている。		26
	3  上記②(理由)についてのみ書いている。		15
	4  解答の条件に沿って書いていない。		9
	5  問題の意図が読み取れていない。		9
	6  無解答		0

解答類型の1～3を見ると、条件を全て満たして正答できた生徒は41%である。資料から根拠は読み取れているが理由を説明していなかったり(26%)、理由を説明しているが根拠を示していなかったり(15%)、どちらか一方の条件しか満たせていない生徒は、合わせて41%であった。このことから、授業では資料から読み取ったことを整理させ、必要な情報を選択して活用させるようにすることが必要であり、特色や関連を説明する際に理由を示すことが大切であると考えられる。

また、解答類型の4、5は、問われている内容を読み取ることや条件に沿って表現することに困っている生徒で18%を占める。そこで、学習問題について問われている内容を理解させる時間を大切に、用語やキーワードを使って自分の考えを説明させるようにしていく必要があると考えられる。

このようにして、課題の解決に向けて必要な力を明らかにすることで、授業改善の重点事項が整理されます。本研究では、以下のように整理しました。

**課題解決に向けた授業改善の重点事項**

- ・ 社会的事象に含まれる社会的な問題を吟味し、単元を貫く学習問題を設定すること。
- ・ 資料から読み取ったことをまとめ、キーワードを使って整理する力を育成すること。
- ・ 調べたことを根拠に理由を示して、自分の考えたことを説明する力を育成すること。